

## 板倉聖宣先生講演「仮説とは何か」の一部紹介

### ●「科学はすごい」という感動

2014. 12. 14 京都大学総合博物館にて

僕は今京都大学で文科系の学部の学生さんに自然科学を本気で教えたい。そうすれば日本の社会科学は世界一の水準になると思っています。

戦後の日本の教育が成功したのかどうかはともかくとして、日本の戦後復興は見事なものでありました。僕はその半分の理由は戦争中に文科系の大学生が無理矢理理系にさせられて工業生産に動員させられた。嫌な理系の学問をやっ「て機械」をいじらせたりした。それがプラスになったことがたくさんあるのではないかと思っています。嫌でもやれば楽しいことがたくさんあるんですね。文科系は割となかなかならないけど、理系だったら同じことをやれば同じになるんだよ。理系が好きない人は「同じことをやれば同じだ」というある意味では当たり前なんだけど、それが感動的なんだよ。文科系のやつは相手によって違っちゃうからさ。そういう世界を1回は味わったことが日本の戦後復興にプラスになったと思うのです。会計課長はもともと理科は嫌いだったけど、戦争中に物を作って、「ああ、なるべくしてなるんだなあ」ということを知っていたら、その人たちが会計をやったら違うんだよ。

幸いにして世界の文科系の大学院の学生はみんな科学が嫌いなんだ。シメタものですよ。世界なんだから、そういう中で日本の例えば京都大学の学生が「科学はすごい」という感動があって、「同じ法則が科学では通用するんだ」ということを感動的に学べば、社会の科学もうんと進歩すると思うんです。「 $\sqrt{2}$ が1.41ということを知っている」ということは、どんなに役立つかということを知ってる。京都大学で実際に文科系の学生に振り子の法則を教える授業があった。そうすると振り子の長さを2倍にすると、あるいは半分にすると周期はどうなるか。そうすると大部分の文科系の学生さんは、「振り子の長さが2倍になれば周期は2倍になるんじゃないか」と思うんだね。 $\sqrt{2}$ だなんて思わ

ない。「平方根なんていうのは受験問題を難しくするだけのもの」と思っていたら、実際に実験するとピッタリ $\sqrt{2}$ になるんです。そういうことを知った人は「 $\sqrt{2}$ というのは素晴らしい数だ。半端な数じゃない」と思える。その前は $\sqrt{2}$ なんて半端な数ですよ。でも、実験すると「見事に一般的な法則の支配にある数だ」ということが分かる。そうすると社会の景気の問題だって何だって考えることができる。

(竹田美紀子さん提供の資料です。この日は体調が悪くて参加できず残念でした。)